太平洋戦争と北米伝道 ②

おやさと研究所研究員
尾上　貴行　*Takayuki Onoue*

日米開戦と同時にアメリカ連邦政府当局によって逮捕された「危険な」敵性外国人の中には天理教の教会長や布教師たちも含まれていた。彼らの多くは、ハワイでは真珠湾攻撃の直後から、またアメリカ本土では開戦翌年の２月から３月にかけて逮捕された。その後の審問会（ヒヤリング）を経て抑留所に送られた天理教関係者は最終的に合計 50 人(内アメリカ本土 36 人、ハワイ 14 人）であった（Yamakura, 152)。

ハワイの布教師たちの逮捕と抑留

ハワイでは 1,446 名の日本人が逮捕され、その内 757 名がアメリカ本土の抑留所に送られている（山倉、100 頁)。真珠湾攻撃後すぐに逮捕された日本人の中には、ノースホノルル教会長の本田兼記やアロハ教会長の川崎みゆきなどがいた。ノースホノルル教会では、その日通常の開始時間を変更して午前６時から月次祭を執行していた。本田ヘレン会長夫人によれば「FBI が来た時は、会長はまだおつとめ衣を付けたままでした。三人の大きな男の人達が銃をもって拘留しに来て、FBI 本部まで連行して行った」(『海外布教伝道部報』第 395 号､13 頁) のであり、また川崎会長はその日の様子を以下のように述懐している。

> 近所の木村の長男がアメリカ高射砲の射った弾丸が落ちて当たったものか、病院にはいりました。胸の後に当たって、かわいそうなものでした。そして病院に見舞いにいっているとこへ、小林巡査が迎えに来て、一寸来てくれ、という事で、そのまま連れていかれ、着の身着のままで五日間、風呂もいれてもらえませんでした。行ってみりゃ、偉い人が大勢おって、私の様なものの来るとこじゃないと思いました。婦人ではワヒアワの学校の先生、出雲大社の奥さんなどの五人でした。うちの旦那はあけての二月ころ入ってきました。……オンリー・フュー・ミニッツだといわれて、五年間、抑留されました。翌年四月夫、諒策と米本土へ抑留されました。(天理教ハワイ伝道庁、48 頁)

アメリカ本土での抑留が決定した人々は、合計 10 回にわたる輸送船で本土各地の抑留所に送られた。その輸送船の名簿「一世大陸行氏名」（天理大学附属天理参考館所蔵）には、数々の教会長や布教師たちの名前がみられる。第一回船 1942 年２月 20 日：本田兼記、岩田昌幸、正木庄左衛門、三国又五郎、中本秀吉、上野作次郎。第二回船 1942 年３月 20 日：竹本彦十。第三回船 1942 年５月 23 日：川崎諒策、尾立金左衛門。第十回船 1943 年 12 月２日：瀬戸直一。婦人部川崎みゆき。その輸送中の様子は「船では、船底に特別に作られた監禁室に入れられた。そこは暗くて手さぐりをしないと歩けなかった。手洗いに行くのも決まった時間以外は許されず、ハワイから本土までの九日間、みんなは暗い船底で光を見ない日を送った。」（飯田、83 ～ 84 頁）と伝えられている。

アメリカ本土の布教師たちの逮捕と抑留

アメリカ本土でも開戦と同時に日系移民社会で指導的立場にあった人々が次々と逮捕された。教会長や布教師たちは、いずれ逮捕されることを予期して、教会関係の通信や書簡、天理教教義書、日の丸の国旗、日本の新聞などを処分したり焼き捨てたりした。天理教関係で最初に逮捕されたのは鳥沢林蔵エルエイ（現ウィルソン）教会長と鳥沢繁弐カリフォルニア教会長親子であったとされる。その様子を繁弐は「天理教の教会関係では、私の親父と私が一番早く引っぱられたんじゃないですか。最初はロスのポリスの監獄所に入って、次にタハンガへ移されました。そこで私は英語を話すというんで、通訳をつとめました。」(『一れつ』1976 年７月号、11 頁）と述懐している。

逮捕された日本人は、数度にわたる審問会を経て、最終的に抑留所送り、釈放、あるいは仮釈放が決定された。当時アメリカ伝道庁の書記であり、戦後３代庁長となった吉田進は「ヒヤリングは極く簡単に片づいて、拍子抜けした思いだったが、私関係の書類でも一かかえもあるのに仰天した。何時、何処でそれだけの参考資料が集められていたものか不思議でたまらない。ヒヤリングで如何に言葉巧みに言い逃れしたにしても、インターンになるだけの証拠は既につかまれていたのであろう。」(『G-TEN』第６号、90 ～ 91 頁）と述べている。またこの審問会は統一性を欠き、日本人に対して不当に厳しく、形式的なもので抑留の有無はほとんど最初から結論がきまっていたとされる。

こうして抑留が決定したものは、モンタナ州ミズーラ、オクラホマ州フォートシル、ルイジアナ州リビングストン、ニューメキシコ州ローズバーグ、サンタフェ、テキサス州シーゴビルなどの抑留所へ送られた。その多くは家族のある人々であったが、家庭生活から強制的に拘引され、独り身を強いられることになった。彼らは抑留所を数カ所転々とした後、最終的にサンタフェに集められるものが多かった。また家族抑留所がテキサス州のクリスタルシティーに設置され、夫婦の一方が抑留者であった場合は、他方の了解のもとにここで家族一緒に抑留されることとなった。

「危険な」敵性外国人としての日本人の逮捕・抑留の根底にはアメリカ国内でのアメリカ主義と排他主義、また日本帝国主義への危惧があったとされ､天理教の教会長や布教師たちが「危険」とみなされた要因は、彼らが満州移住計画のような日本帝国主義的活動と強く結びついた神道一派の指導者であり、その日系移民社会での活動が日本政府の侵略的、国家的、軍国主義的政策への協力するものと見なされたことであると考えられる。布教師の逮捕後に行われた審問会では、天理教と天皇・国家神道との関係、大東亜共栄圏について、満州駐留兵士への慰問金や紀元 2600 年帰参などが問われている。また、当時のアメリカ政府当局の天理教に対する警戒の強さは､行政府直属（後に内務省管轄）戦時転住局の日系人宗教に関する調査にうかがえる。その調査報告では対象 111,170 人中「天理教及び類似諸宗教」の数は 442 人とごく少数であったにもかかわらず、教団の名前として仏教、キリスト教などと並んで天理教が挙げられている（United States Department of the Interior, 79)。

［参考文献］
・飯田照明『ハワイ伝道の曙―上野作次郎と津志』天理教道友社、1984 年。
・天理教ハワイ伝道庁『天理教ハワイ伝道庁五十年史―伝道庁史篇』天理教ハワイ伝道庁、2006 年。
・山倉明弘『市民的自由：アメリカ日系人戦時強制収容のリーガル・ヒストリー』彩流社、2011 年。
・United States Department of the Interior, War Relocation Authority. *The Evacuated People: A Quantitative Description* (War Relocation Authority; v. 3). AMS Press, 1975.
・Yamakura, Akihiro. “The United States-Japanese War and Tenrikyo Ministers in America.” In *Issei Buddhism in the Americas*, edited by Duncan Ryuken Williams and Tomoe Moriya, 141-163. University of Illinois Press, 2010.